教育 目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒 明るく思いやりのある生徒 健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第36号

平成30年 3月15日発行 須賀川市立第二中学校 **☎**75-2910

発行責任者:校長 高崎則行





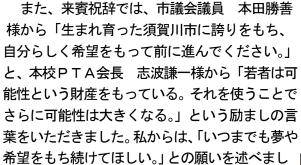
今、あらためて「うちの子どもたちを見てくださ い。」と言いたい気分です。前号(第35号)で期待を あおった式歌の出来映えを表現できるだけの筆の力 がないので、来賓の方の言葉で紹介しますと

「学校だよりの言葉どおり、第一小節から声が出て、

期待に違わぬ式歌だった。」



という感想をいただきました。入退場の音楽も 吹奏楽部の生演奏です。歌声も器楽演奏も本物 の力を発揮しました。





た。これらの言葉が、卒業生の心の中で 光を灯してくれれば嬉しいです。

なお、この紙面には、この日の第3学 年担当の表情をちりばめてみました。学 年主任や担任はもちろんですが、進路指 導主事の尾形雅信教諭、副担任の佐浦志

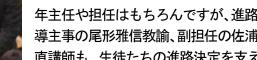












直講師も、生徒たちの進路決定を支えた立役者なのだということを最後につ け加えさせてください。



敬愛・継承

送 辞

愛される学校

答



信頼・未来

ここに送辞と答辞の一部分を抜粋して紹介します。卒業生とその保護者の皆さんには、あらためて式の雰囲気を味わっていただけるのではないかと思います。また、その他の保護者・地域の皆さんには、本校の卒業式のイメージを楽しんでいただけるものと思いますが、どうでしょうか。

そして在校生には、いよいよ須賀川二中の屋台骨を支え、伝統と校風を継承するのだと いう決意を確認してほしいと願っています。

中体連も終わり、先輩方も部活動から進路に 向けて軸足を移動し始めていた頃、後輩ができ たばかりの私たちは、まだまだ未熟で一年生へ の教え方や接し方に悩んでいた時、先輩方が言 ってくださいました。

「これから二中を守っていくのはあなたたちだから、もしも良かれと思って叱ったことが伝わらなくて後輩たちに嫌われるのなら、それはもうすぐ引退する私たちの役目。」

そうおっしゃった言葉どおり、先輩たちはきちんと話をして事を収め、愛される学校を守っていく心構えを教えてくださいました。

あの日ほど、自分 たちに足りないもの を思い知った日はあ りません。

あの日ほど、こう いう先輩になりたい と思ったことはあり ません。(中 略)



先輩方の須賀川二

中は私たちがしっかり受け継ぎ、つなぎます。 これから困難にぶつかることがあっても先輩 方なら「不撓不屈」の精神で乗り越えてゆける と信じています。先輩方、今日まで本当にあり がとうございました。

皆様のこれからのStoryが冒険と幸せに満ち た物語でありますよう心から祈念して送辞と いたします。

(送辞:2年 須田日菜子さん)

在校生のみなさん。今まで僕たちを支えてくれてありがとう。今、須賀川二中の伝統を皆さんに託します。みなさんなら「あいさつの二中」「歌声の二中」「We Love 二中」を継承し、みんなに愛される学校にしていくことができると信じています。須賀川二中の未来をみなさんの力で切り拓いていってください。

たくさんの思い出ができました。 笑顔あふれる休み時間、 友だちと歩いた帰り道、 仲間がいた



からこそ何気ない日 常までもが輝かしい 思い出になりまし た。そして辛い時に はそばにいてくれた 仲間がいました。苦 しい時には手をさし のべ、背中を押して くれた仲間もいまし

た。どんな困難が立ちはだかっても仲間ととも に乗り越えてきたのです。こんなすてきな仲間 に出会えたこと、同じ時間をともにできたこと は本当に幸せでした。

僕たちは、たとえ進む 道は違っても、この思い 出がある限り、いつもつ ながっています。この素 晴らしい思い出を胸に それぞれの未来に向か って歩んでいきます。



(答辞:3年 星 智徳くん)